

赤く紅葉した風景



ビクトリアの滝



## NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会 ニュース第 21 号 (H25.12.15)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



**はじめに** 12月も早や中旬をすぎ、年末の準備が進んでおられることと思います。感染性胃腸炎やインフルエンザも流行しているようですので、手洗い、咳エチケットをしっかりと行っていただき、健康に充分ご注意くださいと思います。

さて12月6日からテレビ東京の撮影クルーがきて、ルアノ地区の巡回診療の状況等を撮影しています。山元先生からも、いつも撮影されていて緊張されています、との連絡が届いています。具体的にどのような映像になって報道されるのかまだわからない状況ですが、巡回診療の意義や現地の状況がきちんと理解されるといいなあと考えているところです。

今回は、平成25事業年度最後のORMZニュースとなります。

内容は、先月27日ルアノの巡回診療に同行された日本人女性、医療関係ではありませんが、ボランティアとしてルサカに滞在しておられる方からのお礼状です。巡回診療の現状を別の目で見られた感想です。山元先生ご自身は恥ずかしいといわれていますが、率直な感想です。ぜひお読みください。

### 現地活動報告 (ルアノの巡回診療に同行して A.K.さんより)

先生、先日はルアノの診療に連れて行っていただき、ほんとうにありがとうございました。以前から先生のお話を聞きながら、“きっと、とてもたいへんなところなのだろうなあ”と思っていましたし、写真を見せていただいていたので覚悟はできているつもりでした。でも、実際に連れて行っていただいた今、まずお伝えしたいのは、あの場所に診療のために通い続けていられる先生に対する深い敬意の気持ちです。ルアノに通い続けることがどれほどたいへんなことか、忍耐の、自己犠牲の伴うことか、たった一度連れて行っていただいただけですが、先生の苦勞のその一部が少しだけ体験できたのではないかと思います。そして、ほんとうにすばらしい活動をされていることに改めて感動しました。

ルサカを出発して、グレートノースロードを北上して快適なドライブを楽しんでいた私ですが、実は最初にびっくりしたのは、グレートノースロードを左に折れて、ムレタさん(準医師)を迎えに行った時でした。もちろん舗装なんてされていない石ころと穴ぼこだらけの細いあの道を揺られながら、先生も運転手のスルさんも平然としておられるので、“あ、ここで驚いてはいけないのだな”と、今日この先のドライブをちょっ

と覚悟した私でした。でも、ムレタさんと共にまたグレートノースロードに戻ってチサンバへ、そしてチペンビヘルスセンターへ向かう道は本当に快適でした。よく整備された広い農場の景色、そして広くてきれいな池の周りに牛が集まっている様子などは、ルサカでは見られないほっとする景色でした。

チペンビヘルスセンターで他のスタッフと合流するのを待っていた時目についたのは、壁に貼られた女性の権利を守るために用意されたポスターや手書きの標語のようなものでした。帰り道で運転手のスルさんも、農村の女性は厳しい生活をしているので、老けるのが早いとおっしゃっていましたが、同じ女性として生まれた国が違うだけで、あるいは同じザンビアでも街に生まれた女性と村に生まれた女性の境遇がそれほど違うことを知り、この不公平な現状が早く変化してほしいと改めて強く思いました。

そして、チペンビを出発して、しばらく走ってから、ルアノへ向かう道を左に入って行ったあの先の体験は、ことばではうまく表せないものでした。最初は低い木にはさまれた砂地の道を、そしてだんだん石が、そして岩がごろごろしている道にかわって行って、車が急降下していくように思えた時、気分はまさにジェットコースターでした。もちろん、ゆっくりと丁寧に運転して下さるので、安心して乗っていましたが、それでも、どう考えても車が通れる道ではない、その様子を見ながら、“この先どうなるのだろう？”と考えていました。何か所も難所を越えていながら、これはとても体力のいる仕事だなとも思いました。“今日は緑がきれい”と先生はおっしゃいましたが、私はとても景色を楽しむ余裕がありませんでした。はじめて少しほっとしたのは、あの大きなバオバブの木の所へ来た時です。その先ルアノの診療所まではもうすぐでしたね。



バオバブの木

もうすでにたくさんの方が集まっていて、受付の順番を待つ人の列が、列というより群衆が、受付の小さなテーブルに押し寄せて来るように見えました。もちろん受付をすませた患者さん達が全て先生とムレタさんの診察を受けるために、隣の建物へと移っていくわけで、“これはたいへんだな”とここでもまた思いました。あの日はとてもとても暑くて、全ての受付が終わった後、私は車で休ませていただいていた。朝ルサカを出発してルアノに着くまで4時間以上、そして、それから全ての患者さんの診察が終わるまで5時間ほど、ほんとうにお疲れさまでした。きっとすごくお疲れのはずなのに、15時半すぎの遅い昼食をとっておられる時、先生は笑いながらスタッフと話しておられました。また、“すごいなあ”と思いました。



診療の様子

ところで、あの日の昼食でいただいたインパラ（野生のシカ）の干し肉は初めての経験でした。はじめはこわごわでしたが、塩の良く効いたベーコンのような味で、とてもおいしかったです。ごちそうさまでした。

受付のお手伝いをしていた時、そして診察を受けた後、薬をもらうために戻ってくる患者さんを見ていた時、当然ですが具合が悪くてしんどそうにしている子供たちをたくさん見ました。立っているのがしんどくて、座り込んで薬の順番を待っている女の子を見た時、先生がここに診療に来られなかったら、彼女どうなったんだろう……と考えてしまいました。



スタッフ集合写真



